「猛暑及び気候変動が与える身近な行動への影響」に関するアンケート　リサーチプラン

1. 調査の背景と目的

平成30年の夏が「災害並み」と称されるほどの猛暑であり、大阪府内で7,000人以上が熱中症により救急搬送されたことから、大阪府では、従前の適応行動に加え、今年度より「暑さから身を守る３つの習慣」について、普及啓発事業を開始した。

暑さ対策に対する府民の意識等を確認することにより、適応行動や暑さ対策の効果的な啓発方法を検討するため、本調査を活用する。

1. 調査（検証）項目

仮説　暑さにより体調を崩したことがない人のうち、暑さに対する適応行動をとっていない人の割合並びに自分自身が暑さにより体調を崩す可能性がないと認識している人の割合は、性・年代によって差がある。

1. 調査対象

国勢調査結果（平成27年）に基づいた、性・年代・居住地（４地域）の割合で割り付けた、18歳以上の大阪府民1,000サンプル

1. 質問項目

予備質問　５問

SC1　年齢（N）

SC2　性別（SA）

SC3　都道府県（SA）

SC4　市町村（SA）

SC5　職業（SA）

本質問　22問

Q1　子ども、高齢者の有無（MA）

Q2　過去に暑さにより体調を崩した（症状の例を記載）経験の有無（MA）

　　Q3　【暑さにより体調を崩した人】対処の状況（SA）

　　Q4　【暑さにより体調を崩した人】体調を崩した原因と思われる行動（SA）

　　Q5　自分自身が暑さにより体調を崩すと思うか（SA）

　　Q6　【暑さにより体調を崩さないと思う人】自分自身が暑さにより体調を崩さないと思う理由　（MA）

　　Q7　熱中症が急増すると思う月（SA）

Q8　運動によって、暑さにつよい「からだづくり」ができることを知っているか（SA）

　　Q9　【暑さにつよい「からだづくり」をしている人】知った媒体（MA）

　　Q10　暑さ指数の認知と利用（SA）

　　Q11　【「暑さ指数」を知っている人】知った媒体（MA）

　　Q12　【「暑さ指数」を知っている人】暑さ指数メール配信サービスの利用の有無（SA）

　　Q13　エアコンの設定温度と実際の室温が異なる場合があることの認知（SA）

　　Q14　【暑さをしのぐ「エアコンの利用」を知っている人】知った媒体（MA）

　　Q15　エアコン利用時の温湿度の確認状況（SA）

　　Q16　高齢者が暑さへの適応能力が低くなることに対する認知（SA）

Q17　「適応」の認知度（SA）

Q18　自身が取り組んでいる暑さに対する適応行動（MA）

　　Q19　【何らかの適応行動に取り組んでいる人】

ここ２～３年の間に取り組むようになった適応行動（MA）※前問で選択したもののみ表示

Q20　自身が取り組んでいる省エネ行動（MA）

Q21　昨年夏季のエアコンの室温28℃設定の実施状況（SA）

Q22　参加したいイベント（MA）

1. 検証方法

仮説　【Q2 暑さにより体調を崩した経験がない人】

SC１・SC２×Q18、SC１・SC２×Q5